



2020年 露地・雨よけぶどう病害虫防除暦

JA中野市営農センター
JA中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)	収穫前 使用時期	使用 回数	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
	4月上旬 粗皮はぎ後 (発芽前)	特別散布 展着剤 20 ml ラビキラー乳剤 500 ml	発芽前 (休眠期)	2回	300	ブドウトラカミキリ (ブドウカガバ) (カスカガ)	① トカミキリ(ブドウカガバ)の発生がある場合は散布する。 ② 発芽後の散布は薬害が発生するので、必ず発芽前に散布する。 ③ ラビキラー乳剤は訪花昆虫に影響があるので、4月上旬散布を厳守 ④ 晩腐病多発園はペント水和剤200倍(休眠期、1回)を加用する。
	4月中下旬 (発芽直前)	① アビオン-E(展着剤) 100 ml パスポート顆粒水和剤 400 g	休眠期	1回	手散布 300	晩腐病 黒とう病	※晩腐病発生園は必ず手散布で死角の無いよう散布する。 ① 晩腐病発生園はパスポート顆粒水和剤に代えてペント水和剤200倍(休眠期、1回)を使用する。ただし、4月上旬に加用して散布した場合は左記のとおり防除する。
	5月上旬 特別防除 カガラムシ対策	樹幹塗布(水:7ℓ:リン=1:1) 水【20mlあたり】 アルバリン顆粒水溶剤 20 g	幼果期まで ただし収穫30日前	塗布 1回	1樹あたり 20-40 ml	カガラムシ類 (クビアスカガ)	① 主幹分岐部下の粗皮を30cm以上削り塗布する。 薬液量の目安:直径20cm以上の樹は40ml塗布。 ② クビアスカガ多発園は6月上旬に塗布を実施する。ただし、使用回数が1回のため注意する。
	5月上旬 (発芽直後)	特別散布 展着剤 10 ml モスピラン顆粒水溶剤 50 g	14日前	3回	300	ツマグロオオカスカガ クワコナカガラムシ	① 訪花昆虫対策として早朝散布・下草刈りを実施厳守する。 併せて散布適期を厳守する。
	展葉3・4枚	特別散布 展着剤 10 ml キノンドー顆粒水和剤 100 g	45日前	4回	300	べと病 黒とう病	① 連続した降雨が予想される場合は、特別散布を実施する。 ② キノンドー顆粒水和剤は薬液の汚れが目立つため、ハウスや住宅が隣接する園地は散布時の飛散に注意する。 ③ キノンドーの登録内容に注意する(45日前、4回(開花後は1回)) ④ ツマグロオオカスカガやツヤケヒメグムシ等が心配される園地はメチオン水和剤40,000倍(21日前、2回)を加用する(訪花昆虫に注意)
	5月中旬 展葉6枚頃	② 展着剤 10 ml オーソサイド水和剤80 125 g	30日前	3回	300	晩腐病 べと病 灰色かび病 黒とう病	① カガラムシ類、ツマグロオオカスカガ、ツヤケヒメグムシ発生園はコルト顆粒水和剤3,000倍(前日、3回)を加用する。
	5月下旬 展葉9枚頃	③ 展着剤 10 ml ドーシャスフロアブル 50 ml	60日前	3回	300	晩腐病 べと病 黒とう病	① (アブラムシ)、カガラムシ類発生園はトランスフォームフロアブル1000倍(14日前、3回)を加用する。
	5月下旬 満開予定日 14日前	種なしぶどう必須散布 ④ 展着剤 10 ml ストマイ液剤20 100 ml	満開予定日の 14日前～ 開花始期	1回	300	【無種子化】	① 種なしぶどう栽培園は必ず散布する。(散布遅れに注意) ② 有核巨峰には絶対に飛散しないよう注意する。 ③ 花穂に当たるようたっぷり散布する
	6月上旬 展葉11枚頃	展着剤 10 ml フラスター液剤 100 ml	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	2回	300	【着粒増加】 【新梢伸長抑制】	① 樹勢の強い園、前年度花振り発生園は散布する。 ② フラスター液剤の濃度が高いと着粒密度が高くなるので注意。 ③ 有核巨峰は展着剤としてアプローチB1500倍を使用する。
	6月上旬 開花3日前	⑤ 展着剤 10 ml パレード15フロアブル 50 ml オーソサイド水和剤80 125 g スプラサイド水和剤 66 g	7日前 30日前 14日前	2回 3回 2回	400	晩腐病 べと病	① パレード15フロアブルに代えてフルセバ-1,500倍(7日前、3回)を使用してもよい。
	前回から 10日以内 (落花直後)	⑥ コテツフロアブル 50 ml スイッチ顆粒水和剤 33 g ジマンダイセン水和剤 100 g	60日前 30日前 45日前	2回 2回 2回	400	灰色かび病 褐斑病	① マゼン成分を含む農薬(ジマンダイセン・ゾーベックエーブル・ペンコゼブ・リドシ)は使用回数に注意する。(合計2回まで)
	前回から 10日以内 (落花12日)	⑦ フェニックスフロアブル 25 ml ゾーベックエーブル顆粒水和剤 133 g アドマイヤー顆粒水和剤 10 g	14日前 45日前 21日前	2回 2回 2回	400	黒とう病 チャノキアザミヤ (スリップス類) フタテヒメコバエ (ナミダニ類)	① スリップス発生園は主軸に薬液が達するようたっぷり散布する。 ② 農薬汚れ・果粉溶脱の心配があるため、散布時期を徹底する。 ③ マゼン成分を含む農薬の使用回数に注意(上段注意事項) ④ 主幹害虫発生園は主幹、主枝にたっぷり散布する。 ⑤ ゾーベックエーブルに代えてペンコゼブフロアブル1,000倍(60日前、2回)を使用してもよい。
	前回から 10日以内 (落花20日)	⑧ ザンプロDMフロアブル 50 ml アミスター10フロアブル 100 ml ディアナWDG 10 g	30日前 30日前 前日	2回 3回 2回	400	(クビアスカガ)	① 散布の際は果粉溶脱に注意し散布する。 ② 汚れや果粉溶脱が心配される場合は、ザンプロDMフロアブルに代えてエトフィンフロアブル1,000倍(7日前、4回)を散布する。
	前回から 10日以内 (落花30日)	特別散布(袋かけ未実施園) ライメイフロアブル 25 ml オンリーワンフロアブル 50 ml アーデントフロアブル 50 ml	14日前 前日 前日	3回 3回 4回	400	晩腐病・べと病 褐斑病・黒とう病 灰色かび病 アザミヤ類・ハダニ類	① 袋かけが間に合わない園は必ず散布する。 ② 散布の際は果粉溶脱に注意し散布する。
	7月中旬 (袋掛直後)	⑨ ムッシュボルドーDF 200 g アルバリン顆粒水溶剤 50 g K・Kステッカー(展着剤) 33 ml	— 前日 —	— 3回 —	400	べと病・さび病 チャノキアザミヤ ブドウトラカミキリ カメシ類 コナカガラムシ類	① ハダニ類(サビダニ)の発生園はコマルト水和剤2,000倍(7日前、2回)を加用する。 ② クビアスカガ発生園はダングS水溶剤1,500倍(21日前、5回)を加用する。 ③ ムッシュボルドーDFは高温時や降雨時に薬害がでるので、散布の際は注意する。(薬害が心配な園はクレフノン100倍を加用する) ④ K・Kステッカーに代えてアビオン-E1,000倍を使用してもよい。 アビオン-Eを使用する場合は最初に調合する。
	7月下旬 (前回から 10日以内)	⑩ ICボルドー66D 2.5 kg テルスター水和剤 100 g	— 14日前	— 1回	400	晩腐病 べと病 さび病 チャノキアザミヤ	① ICボルドー66Dに代えて4-4式ボルドー、コサト 3000 2,000倍、ムッシュボルドーDF500倍を使用してもよい。(上段注意事項参照) ② ボルドー液は、桃・プラム・梨等に薬害が発生するので、使用する場合は隣接園に注意する。 ③ べと病発生園は、ICボルドーに代えて下記薬剤を使用する。 ・レーバフロアブル2,000倍(7日前、3回) ・エトフィンフロアブル1,000倍(7日前、4回)
	8月中下旬 (前回から 10日以内)	⑪ ICボルドー66D 2.5 kg	—	—	400	べと病 さび病 晩腐病	④ (チャノキアザミヤ)・ハダニ発生園はアーデントフロアブル2,000倍(前日、4回)を加用する。(散布直前混用) ⑤ カメシ類・(アマガサカ)発生園はカガラムシWDG1,500倍(21日前、5回)を加用する。(散布直前混用) ただし、カガラムシなど早生品種が混植されている場合は散布時期に注意する(収穫21日前まで)
	収穫終了後	晩腐病・べと病 多発園 展着剤 10 ml ICボルドー66D 2.5 kg	—	—	400		① 病原菌は落葉内で越冬するので、集めて土中に埋める等の処理をする。 ② 根頭がんしゅ病の発生防止のため、ワラ巻きによる防寒を実施する。 ③ 晩腐病の耕種防除として、二番成り・巻きひげ・果梗痕をきれいに取り除き、中耕を実施する。あわせて園内を整備し栽培環境を整える。

安全・安心な農産物生産のために防除・使用基準を厳守しましょう。 * 農薬散布の際は、隣接園・他作物へ飛散しないようにする。

当防除暦の複製・コピーを禁止します